

ひらつか

広報 2019 8 月
No.1133 第3金曜日号

青空の下、みずみずしい野菜や取れたての魚が並ぶマルシェ。市内ではさまざまなマルシェが開かれています。今号ではマルシェの魅力や開催情報を紹介します。

サンサン
①SunSunマルシェ ②湘南ひらつかふれあいマーケット朝市 ③地どれ魚直売会 ④平農マルシェ



＝ マルシェには訪れる楽しさがある ＝



目次

1～3面…**特集** マルシェに出掛けよう…市内で開催されているマルシェや朝市を紹介します。
4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ
「子どもの健康」「お知らせ掲示板」など

8面…「写真リポート」「市長こらむ」
「リトアニア×平塚 ホストタウンNavi」
広報ひらつかのPDF版は市ウェブからご覧いただけます。
アプリ「マチイロ」「Catalog Pocket」からもご覧いただけます。

●発行 平塚市 ●編集 秘書広報課 ●法人番号 3000020142034 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 ☎0463-23-1111 FAX 0463-23-9467



手をつなぎたくなる街

平塚マルシェに出掛けよう

フランス語で「市場」や「朝市」などを意味する「マルシェ」という言葉。新鮮な野菜や魚のほか、花や雑貨などを買いに市内のマルシェへ出掛けませんか。

今回は8月20日(火)午後3時45分～4時15分。平塚農業高校(達上ヶ丘10-10)。詳しい日程などは、同校ウェブをご覧ください。

☎ 平塚農業高校 ☎ 31-0944



収穫した野菜を仕分けする金子さん(写真左)

「畑を耕して、一から野菜や果物を作っています。愛情をいっぱい込めて丁寧に育てています」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

「愛情を込めて野菜を育てる」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

「愛情を込めて野菜を育てる」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

「愛情を込めて野菜を育てる」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

「愛情を込めて野菜を育てる」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

「愛情を込めて野菜を育てる」とはじけるような笑顔で話すのは園芸科学科2年生の金子藍蘭さん。「農業は

毎週
火曜日

平農マルシェ



販売前に野菜を陳列する横山さん

販売も生徒が手掛ける

「新鮮さと安さ」がウリですね。自分たちが育ててきた野菜を買ってもらえるとうれしいです」と話すのは園芸科学科3年生の横山まりんさん。「今後はもう少し種類を増やしたいですね。トマトを加工してジュースを作りたいし、福祉施設への訪問販売もできたらいいな」と思い描く横山さん。「取れたての野菜は、甘みがあり味も濃厚で、みずみずしいので、格別においしいですよ。商品は私たちみんなの努力の結晶。平農マルシェで野菜の魅力を見つけたいです」と続けます。

「毎回たくさんの方が来てくれるので励みになります。このマルシェを通じて農業の素晴らしさをいろんな人に伝えていきたいです」と横山さんはほほ笑みます。

毎月

第2
日曜日

SunSunマルシェ

「平塚に住んでいる人を楽しませたい、地元を盛り上げたいという気持ちを持った、地元商店の人たちで運営しています」とSunSunマルシェ実行委員の中村幸子さんは話します。

同マルシェは平塚近郊の商店主たちが、手作り雑貨やアクセサリー、キッチンカーで作ったできたて料理などを販売する青空市です。平成23年2月に海岸に近い店舗の駐車場で、生産者

と消費者をつなげるコミュニティーマーケットとして誕生。平塚を盛り上げることを目的に地域の人と交流しながら回を重ねました。徐々に出店希望者が増え、5年前に会場を湘南海岸公園へ移しました。すると出店者数が約7倍に増加。今では毎回70店舗ほどの店が並びます。

広い芝生の上にテントを張った店が連なり、ピクニックを連想させる会場は、誰もが朝からゆったりと過ごせる雰囲気です。「非日常的な空間づくりを大切にしています。出店者も、この雰囲気が好きで参加しているという人が多いですよ」と中村さんは笑顔で話します。

小さな店舗でも参加でき、複数の店舗が合同で出店できるなどの柔軟な対応が出店者の多い理由の一つです。「このマルシェに参加している出店者はそれぞれ違った得意分野があります。この場で出会った人たちが話し合い、スポーツや音楽などの新しいイベントをマルシェで

今回は9月8日(日)午前10時～午後2時。小雨決行。湘南海岸公園(高浜台34-1)。同公園東側の臨時駐車場をご利用ください。

☎ 商業観光課 ☎ 35-8107



同実行委員のメンバーと今回の打ち合わせをする中村さん(写真左)

開くこともできました」と話す中村さん。同マルシェでは販売のほかに、毎回さまざまなイベントが開催され、来場者を楽しませています。「今後は会場で子どもがスポーツに触れるきっかけ作りをしたいです。テニスやヨガ、バレーボール、かけっこ教室など、子どもが体を使って楽しめる教室を企画していきます。あちこちから音楽が流れてくる空間で買い物を楽しんでもらいたいので、ライブパフォーマンスなども充実させていきたいですね」と中村さんは熱意を込めます。



キッチンカーでできたての飲み物や料理を味わえます



地どれ魚直売会

平塚港に水揚げされた新鮮な魚を販売する「地どれ魚直売会」。サバやイワシなど食卓によく並ぶ魚を中心に販売する同直売会の一番人気は活魚のアジで、販売開始前から行列ができるほどです。時にはヒラメや伊勢エビなどの高級な魚介類が販売され、何が並ぶのか当日のお楽しみなのも同直売会の醍醐味です。

「始めたきっかけは、『他の港などでは直売会をやっているのに、どうして平塚ではやっていないのか。自分たちも取れた魚を平塚の人たちに食べてもらいたい』という漁師の声でした」と当時を振り返るのは市漁業協同組合の伏黒哲司さん。「平塚で取れた魚を知ってもらい、新鮮な魚を平塚で食べてもらおう」と地元の漁師たち

漁協のマスコットキャラクター「ひらつかタマ三郎」と説明する伏黒さん



漁師一押しシイラ

が団結し、同直売会は始まりました。まずは、長く続けることを目標に掲げ、回を重ねるごとに徐々に来場者が定着。今では市内外から訪れる大勢の人でにぎわいます。

平塚沖で取れた魚をPRするため、同直売会は新鮮な地場産にこだわります。当日の深夜1時頃に出港する定置網漁は、取った魚を船の上で氷水などに入れて締める「野締め」で保存し、鮮度を保って直売会へ運びます。一方、一本釣りの漁は、朝6時頃に出港し直売会の直前まで漁をして港に戻ります。

「鮮度には絶対の自信があります。取った魚を極力生きたまま提供するので、どれも新鮮な魚です」と誇らしげに話す伏黒さん。「平塚は目の前に海があり漁師もいるのに、平塚沖で取れた魚があまり市民に知られていないと感じています。平塚の新鮮な魚を知って、食べてもらうため、この直売会に足を運んでもらい、魚がある豊かな生活を感じてもらいたいです」と熱く語ります。

次回は8月30日(金)。8月のみ第5金曜日。野菜・干物などは午後2時～、活魚・鮮魚の販売は3時～売り切れ次第終了。しけ・不漁の場合は中止。ひらつかタマ三郎漁港(新港)の荷さばき施設。クーラーバッグなど。

市漁業協同組合 ☎21-0146



脂が乗った人気のアジ



お得な魚の袋詰めは30分ほどで完売します

「鮮やかな鉢花を販売しています。長年続けていると、お客さんに求められる商品が、自然と分かるようになってきました」と話すのは、上吉沢でシクラメンなどを生産している「花工場」の二宮弘子さん。二宮さんは湘南ひらつかふれあいマーケット朝市の開催当初から参加しています。今年で20周年を迎えた同朝市。市内の生産者と触れ合いながら、市の名産品や魚の加工品、畑直送の新鮮な野菜などを手に取ることができま

す。二宮さんは「顔なじみの方が多く来てくれますね。『今日は何がオススメなの?』とよく話し掛けられるんです。日曜日の朝に開いているので、家族連れが散歩がてらに来てくれますね」と話します。

「色鮮やかな鉢花を販売しています。長年続けていると、お客さんに求められる商品が、自然と分かるようになってきました」と話すのは、上吉沢でシクラメンなどを生産している「花工場」の二宮弘子さん。二宮さんは湘南ひらつかふれあいマーケット朝市の開催当初から参加しています。今年で20周年を迎えた同朝市。市内の生産者と触れ合いながら、市の名産品や魚の加工品、畑直送の新鮮な野菜などを手に取ることができま

毎月 第4日曜日

湘南ひらつかふれあい
マーケット朝市

は気さくで明るい店主が多いので、気軽に声を掛けてください。ちょっとしたことで、どんどん聞いてくださいます」と呼び掛けます。

常連客と談笑しながら販売する二宮さん(写真左)



▼毎回行列のできる干物店

次回は8月25日(日)午前7時～8時。平塚地方卸売市場(四之宮1-7-1)。スタンプラリーを達成した方に、塩田商店の平塚味噌アイスを先着50個限定でプレゼントします。

産業振興課 ☎21-9758



マルシェの魅力を分析

市内で開催しているマルシェの効果は、平塚の隠れた魅力を広く着実にアピールすることではないでしょうか。そして、店主が声を出し、お客さんと顔を合わせながら、販売することでも大きな効果が生まれます。年に1度の大きなイベントに人は大勢集まりますが、「楽しかった」という思いだけで終わってしまい、どのような店かを知ってもらえないことが多いように思います。すると、その後の来店などにつながらず、店の魅力や価値がお客さんに伝わりづらいです。

これが定期的に開催するマルシェという形となると、店や商品の真の価値や店主の人柄

中小企業診断士
ためさき
為崎 緑さん

が伝わりファンが生み出されることになります。

人がつながる場

マルシェに出店する際、店側は場所や来場者層を考えつつ、自身の店の魅力をしっかり伝えることが必要です。毎回漫然と販売しているだけでは、なかなかファンの獲得にまでつながりません。そして、買ってくれたお客さんに自分の店がどこにあるかを伝えることも大切でしょう。

人と店のつながりという点について言え



ば、人付き合いが苦手と言われる今の若い人たちの中にも、店の人との触れ合いを求めている人もいます。ですが、話したくてもどう話していいのかわからず迷ったり、店に入ったら買わなくてはいけないのでは、と不安を感じたりする人もいます。その点、マルシェはオープンな屋外なので立ち寄りやすいのではないのでしょうか。気軽にのぞいて市内の店や街の魅力を見つけ出してほしいです。

一つの会場に店が集まるので、一度にたくさん店の魅力に出会えることも、マルシェの楽しさです。そして、出店者側も人との触れ合いや販売を楽しむことも継続のポイントです。出店者や来場者が、共に楽しめる場としてのマルシェや朝市が平塚市内に増えていくと良いですね。